



中田好一  
大学院理学系研究科  
教授  
木曾観測所長

## キャンパス散歩

# 理学系研究科附属天文学教育研究センター 木曾観測所

**新**宿から中央線に乗り、塩尻で中央西線に乗り換えて30分で列車は木曾谷の中心の町木曾福島に到着します。皆さんの中には「夜明け前」に出てくる代官所の町として思い出される方もあるでしょう。今では「くるまや」や「源氏」を始めとするそばの名店が集まる町としての方が有名かも知れません。木曾福島から今度は車に乗り、木曾川を越えて西へ御嶽山に向かって走り、途中で横にそれて山道を登り尾根の上に出るとそこが「木曾観測所」です(写真1)。地元では専ら「東大天文台」の名で呼ばれています。門には「熊に注意」の札が貼られています。去年は各地で熊が出没しました。観測所でも「先週はゲートの前の木に登っていた。」「昨日は構内の道を横切った。」とクマ話で持ち切りでした。昼休みにキノコ採りに山に入れなくなった職員は不幸な秋を過ごしました。

門から本館までは1kmほどあり、絶好の散歩道を提供しています。北から西の方には穂高、乗鞍、御嶽(写真2)が並び、東は木曾山脈の駒ヶ岳、宝剣、空木、南駒が一望される素晴らしい尾根道です。道の途中に見える変わった形の大きなアンテナ(写真3)は名古屋大学太陽地球環境研究所の太陽風アンテナです。アンテナを過ぎると道の先に望遠鏡ドーム(写真4)が見えてきます。中に入っている口径105cmのシュミット望遠鏡(写真5)は木曾観測所が1974年に創設されて以来の主力装置で、現在も全国からの研究者がひんばんに訪れて来ます。この望遠鏡は普通の天体望遠鏡とちょっと違って、像の焦点位置が望遠鏡の筒の中にあります。昔は筒の中にガラス乾板を装着して、現在は筒の中にあるCCDで、写真(写真6、7)を撮る仕組みなのです。このために直接自分の目で星を見るわけにはいきません。訪問客には大変評判が悪いのですが、「こんな大きな望遠鏡なら雨が降っていても星が見えるでしょう?」と志ん生のようなことを云う方もおられますからどっちもどっちですね。

シュミット望遠鏡ドームから少し離れて30cm望遠鏡(写真8)があります。この望遠鏡は

小型なので、主に明るい星の明るさを測る目的に使われています。こちらは自分の目で天体を見ることが出来ます。ドームから100m程で本館(写真9)の前に出ます。この先は木曾の森です。本館では10人程の職員と観測に訪れた研究者が働いています。ここで皆さんに見て頂きたいのは7,000枚に及ぶシュミット写真乾板です。シュミット望遠鏡は広視野の写真を撮るための特殊望遠鏡で、36cm角という大きなガラス乾板に星空を写し取ることが出来ます。乾板保存室には30年間に渡る観測の成果が観測開始時から1枚づつ番号を振られて保存棚(写真10)に並べられています。

木曾観測所は10年前から全国の高校生を対象に「銀河学校」(写真11)という教育合宿を主催してきました。また、5年前からは文部科学省が行っているSPPという理科教育プログラム(写真12)に参加しています。以前は食堂を使って講義や実習を行っていましたが、参加者が50人になると入りきれません。このため、3年前に講義室が増設されました。最近では天文実習を希望する大学も増えていきます。実習に訪れる学生の印象を聞くと、研究の現場の雰囲気は彼らには印象的なようです。

本館のすぐ裏からは木曾の森(写真13)が広がっています。暖かくなると狸が草むらで遊んでいる(写真14)のが越越しに眺められましたが、去年はあまり現れませんでした。夏ごろ、熊が茂みから頭をつきだしてこちらをうかがっていたりしましたから、熊に追い払われたのかも知れません。全般的には観測所の周りで動物に会う回数が増えていっているような気がします。冬の構内は凍っていますが、4月になると雪の間からフキノトウが顔を出してきます。道からはずれた林の中ではハルリンドウも咲き始めます。里の近くでは福寿草やカタクリの群落が見られますが観測所の周りでは見かけません。5月の連休の頃、桜が開花すると堰を切ったように様々な花が開き始めます。北向きの尾根にはタムシバが真っ白な模様を描き、林のすそは山吹の黄色い帯で飾られ、それが白いハクウ

ンボクやズミ、エゴノキに取って代わられると間もなく夏です。筆者は銀河系中心の周りの星の研究を行っていますが、ちょうどこの頃が観測の好期です。何であれ白い花を見ると天の川を連想するのは職業病の一種かも知れません。

木曾観測所はバスの便もない山の上(写真15)で、昔の人なら木の葉に埋もれと形容するような場所ですが、皆さんどうぞ見学にいらして下さい。歓迎いたします。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15

1. 木曾観測所ゲート
2. 御嶽山
3. 名大の太陽風アンテナ
4. シュミット望遠鏡ドーム
5. ドーム内部のシュミット望遠鏡
6. シュミット望遠鏡で撮ったアンドロメダ銀河
7. シュミット望遠鏡で撮ったスバルの星々
8. 「K.3T」30cm望遠鏡ドーム
9. 観測所本館
10. 乾板保存棚
11. プリズム交換作業中の銀河学校生徒
12. 講義を聞くSPP参加高校生
13. 本館屋上から見るシュミットドームと太陽風アンテナ
14. ためきの親子
15. 千歳・名古屋間の機上からの眺め。中央上から本館、ドーム、30cm、太陽風アンテナ

